

令和7年度 福井県立丸岡高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援 (学習支援部)	<p>a. 主体的に課題解決に向かう姿勢や学力をつけ、「探究的な学び」を推進していくような授業や指導法を研究する。 目標：授業改善等の取り組みに関する評価指数（実行度）80%以上</p>	<p>「探究的な学び」を取り入れ、生徒自身が主体的に学ぶ姿勢を育成する指導法の研究について、「できた」が100%となり、教員の意識が高いレベルにあることがわかる。生徒アンケートの結果からもこれらが浸透していることがうかがえるが、具体的にどのように生徒の力として身についたのかを検証する必要がある。</p>	<p>教職員個人あるいは教科ごとに取り組んでいることを学校全体で共有し、より有効な指導法を構築していきたい。また、生徒にどのような力やどの程度ついたのかを検証できるように生徒自身の振り返りや自己評価、自己点検、教員による評価規準と評価方法を精査していく必要がある。</p>
	<p>b. 目標を意識させ、個に応じた適切な課題を与えるなどし、学習習慣の確立を図る。 目標：学習習慣確立についての評価指数（実行度）80%以上</p>	<p>学習の際に自分の課題や目標、学習の意義を「意識している」と回答した生徒が90%、課題や目標達成のために必要なことを「自分で考えた」と回答した生徒が93%となり、「目標を意識させる」取組の成果が見られる。「お子様は目標を持って学習をしている」と回答した保護者は84%となっており、目標値を越えてはいるが生徒の意識と保護者からの評価には差がある。また、「高校生学習状況調査」では平日の学校以外での学習時間が30分以下の生徒が全体で43%という結果になっており、家庭での学習習慣の定着に課題があり、生徒の意識と実態に差があると考えられる。</p>	<p>学習に対して課題や目標、学習の意義等を意識してはいるが、実際の行動にうつすことができていない生徒がいると考えられる。自己の到達目標に向かって何をどのように学習していくかといった具体的な学習内容や方法を示し、生徒自身の行動の変化を促すような指導をしていく必要がある。</p>
2 生徒支援 (生徒支援部)	<p>a. 様々なルールを自ら守る意識を醸成し、規範意識や多様性社会に適應する力を身に付けることへの支援を行う。 目標：学校のルール遵守に関する評価指数（実行度）90%以上</p>	<p>生徒へのアンケートでは、学校及び社会のルールについて「十分守っている」「ある程度守っている」と回答した生徒が割合が99%を占め、日頃から高い遵守意識を持っていることが分かった。一方で、実際の学校生活においては、身なりや服装に関する指導を受ける生徒や、学校のルールに反して特別指導の対象となる生徒が、昨年度より増加した。 この結果から、ルールを守る意識は高くあっても、日常の中で気持ちのゆるみや価値観の違いなどから行動に結びつかない場面があることがうかがえるので、今後とも支援を進めていきたい。</p>	<p>生徒が主体となってより良い学校づくりに取り組めるよう、生徒会や室長・副室長を中心に、学校のルールや生活面の課題について話し合い、必要に応じて見直しを進めていきたい。生徒自身が規範意識を高め、学校生活を自分たちの手でより良いものへと整えていく姿を育ていきたい。 また、社会全体のルールやマナーも時代とともに変化し、SNSの利用に関するトラブル防止や、自転車の交通ルールなど、現代社会で求められるモラルについては、ホームルーム活動や学年集会、講演会などを通して繰り返し学び、確認する機会を設けていきたい。</p>
	<p>b. 生徒会活動、ホームルーム活動、部活動などの学校における特別活動や校外のボランティア活動の積極的な参加を通して、自主性を育む。 目標：特別活動およびボランティア活動への積極的参加に関する評価指数（実行度）80%以上</p>	<p>生徒会活動では、近隣中学校へ本校の魅力や教育内容を直接伝える中学校訪問を行ったり、学校祭や季節に応じたイベントなど、多彩な企画を立案・運営したりして、学校全体を盛り上げ、生徒が主体となった活気ある学校づくりが進められた。 部活動においては、地域の子どもたちとのスポーツ交流をはじめ、さまざまなボランティア活動に積極的に参加し、地域とのつながりを深める取組も見られた。 教職員においても、特別活動や部活動への指導について「十分できた」「ある程度できた」と回答した割合が97%となり、多様な工夫を凝らし、効果的に充実した取組が行われている。</p>	<p>これまで取り組んできた中学校との連携をさらに深め、地域の中学生に本校の魅力や教育内容をより知ってもらえる機会を増やしていきたいと考えている。とくに、出身中学校への訪問活動や、中高の生徒会同士の交流ミーティングを充実させることで、先生方や後輩とのつながりを強め、学校理解を促進する取組を進めていきたい。 一方で、生徒・教職員ともに時間的な余裕が限られているという課題もあるため、生徒により多くの時間を返せるよう改善に努め、生徒と教職員が互いにゆとりを持ちながら学校生活を送れる環境を整えていきたい。</p>
	<p>・部活動を平日2時間程度、土日3時間程度にする。 ・年間を通じて、週あたり平日に1日、土日に1日以上休養日を確保することを原則とし、大会日程等を考慮しながら、土、日、祝日において、年間52日以上部活動休養日を確保する。 (実行度) 70%以上</p>	<p>教職員アンケートの結果では、部活動において時間の短縮や休養日の確保を図りながらも、充実した活動となるよう支援できたと回答した教員が90%にのぼった。少人数であることを生かし、生徒一人ひとりの実態や目標に合わせた活動が行われたことが、この評価につながったと考えている。 また、外部指導者の積極的な活用や、男女合同での練習体制の整備など、教職員の負担を軽減するとともに、活動の質を高め、教職員と外部の力を効果的に組み合わせながら、生徒にとってより良い部活動の在り方を検討し、継続的に改善と充実を図っていきたい。</p>	<p>現状では、複数の教員が副顧問を兼任し、学校外のクラブで活動し大会に出場する生徒が増えているなど、部活動を取り巻く実態が多様化してきている。今後、中学校の部活動が地域へ移行していく流れの中で、高校の部活動にどのような影響や課題が生じるかはまだ見通せない部分もある。しかし、変化の中にあっても、生徒一人ひとりのニーズにできる限り応えていけるよう、部の統合や男女混合での活動、外部指導者の活用など、持続可能で充実した部活動環境を整えていき、生徒が安全に、意欲的に取り組める部活動が継続できるように、学校として引き続き改善と向上に努めていきたい。</p>

令和7年度 福井県立丸岡高等学校 学校評価書

<p>3</p> <p>進路支援 (進路支援部)</p>	<p>a. キャリア教育や、探究活動、進路情報の提供等通して、生徒が進学や就職に真剣に向き合うように促し、進路を実現させる支援をする。 目標：進路実現に向けた取り組み評価指数（実行度）75%以上</p>	<p>生徒が日頃から進路関係行事に参加し、様々な進路情報を得ることによって、自分の進路について積極的に考えることができた割合が、1・2年生では93%、3年生では100%と、目標の75%を大きく上回った。特に夏のオープンキャンパスや、6月から11月の進路ガイダンスについては、積極的に進路支援部から全学年に案内し、参加者も多かった。また、3年生に対しては、県内大学の学部ごとの説明会や、面接・小論文指導等に全教職員で対応した結果、生徒個々の進路希望先に応じたきめ細かな指導ができた。さらには保護者からも、90%が家庭で進路の話をするなど積極的な支援があった。</p>	<p>生徒各自の進路実現の為に、本年度実施した進路関係の説明会や講座などについて再度振り返りを行い、内容のさらなる向上に努める。また今後も、具体的な進路志望先を2年次2学期までには決定させ、進路志望先が求める教科の学力や、探究力向上への早期の取組を、各学年会と連携しながら推し進める。</p>
<p>4</p> <p>保健管理 (生徒支援部)</p>	<p>b. 「今⇨未来手帳」等を活用し、プラン&リフレクション（計画と振り返り）のサイクルが定着するよう支援する。 目標：生徒が計画と振り返りを行った評価指数（実行度）75%以上</p>	<p>「今⇨未来手帳」やタブレットを用いて学習や課外活動の自己管理をしたり、計画と振り返りのサイクルを身につけたりする指導への取組度は教員側が77%であり、目標の75%を上回った。また生徒側の取組度は65%と、目標の75%を下回った。</p>	<p>今後も、手帳やタブレットによる「自己管理や、計画と振り返りのサイクル定着」を粘り強く促す。特に計画と振り返りのサイクルについては、高校生活のいろいろな面で基本となるだけでなく、進学や就職後にも必要な習慣であることは間違いない。そのため進路支援部からの啓発を定期的に行い、担任・副担任とも連携していくことで、そのさらなる定着を図っていきたい。</p>
	<p>a. ポジティブ教育を推進し、自他を尊重するとともに心身の健康を保持増進できる生徒の育成を図る。 目標：心身の健康管理に関する評価指数（実行度）85%以上</p>	<p>「ポジティブ教育」を実施し、生徒の97%が「いろいろなことに前向きに取り組んだり、他者に思いやりを持って接したりすること」が「十分できた」「ある程度できた」と回答している。また、教員・保護者も9割以上が成果を認めており、心身の健康保持に向けた体制が安定してきている。ポジティブ教育が知識だけにとどまらず、実感として受け入れられるよう取り組みたい。アンケート回答の肯定率は高いが、悩みや問題を抱える生徒は多い。互いを尊重する姿勢の向上や、いじめの未然防止、良好な人間関係づくりに繋がるよう、取組を継続していく。</p>	<p>来年度も「ポジティブ教育」を継続し、生徒の自己肯定感や学級への適応感を高め、いじめや不登校等を未然に防ぎたい。1年生には早期に仲間づくりに関する活動を取り入れ、円滑に高校生活に移行できるよう支援したい。 また、保健室における生徒の心身の健康相談や、教育相談での年9回のアンケートの実施等を通して、学年や教科担任と連携を取り、気がかりな生徒に迅速に対応していきたい。さらに生徒の様子を把握できるよう、教育相談におけるアンケートの内容や実施方法も見直していきたい。</p>
	<p>b. 学習環境整備のため毎日の一斉清掃の徹底を図る。また、安全で美しい環境を維持することに努められる生徒を育む。 目標：環境整備への取組に関する評価指数（実行度）90%以上</p>	<p>保健整美委員会の取組で、毎日の一斉清掃の徹底が習慣化を促したと推察され、「十分できた」「ある程度できた」と答えた生徒が昨年同様98%であった。安全で美しい環境を自ら維持しようとする主体的な態度が育まれていると言える。教職員の回答については昨年度の100%であったものが93%に低下した。教員数の減少により監督場所が複数に及んで広範囲となったことにより、清掃の監督や環境美化の指導が十分に行えないと感じている教員が増えていることが原因と考えられる。</p>	<p>清掃時間の活動は、ほとんどの生徒が環境美化に対する意識を高く持ち、清掃活動に取り組んでいる。しかし、清掃場所によっては十分な清掃が行われていないところもあるので、保健整美委員会を中心に、清掃がもたらす心の安定や学習効果を伝えながら、学校全体で価値観を共有する仕組みづくりに努める。 来年度も保健整美委員会による清掃強化週間を実施し、環境美化の大切さを伝えたい。</p>
	<p>・週1回、ノー残業デーを実施し教職員は定時退庁とする。 ・会議や行事を精査し、簡素化、削減を行う。 (実行度) 80%以上</p>	<p>ノー残業デーの早めの退庁や、会議の時間の短縮などによる、学校業務改善の取り組みについて「十分できた」「ある程度できた」と答えた教職員は64%で、昨年まで続いていた落ち込みから、やや回復した。組織全体で効率的な時間管理を尊重する意識が醸成されつつあることが見える。</p>	<p>肯定的な回答は6割を超えた一方で、36%の教職員は達成できていないことが課題である。校務分掌や担任業務の偏りにより負担が集中している可能性もある。教育活動の質の低下を招いていないかという懸念や、持ち帰りの仕事の有無など、表面上の退勤時間だけでは測れない部分もある。会議や行事の精査、簡素化、削減を行い、達成率向上に繋げたい。</p>

令和7年度 福井県立丸岡高等学校 学校評価書

<p style="text-align: center;">5</p> <p style="text-align: center;">図書整備 (学習支援部)</p>	<p>a. 進路支援の取組と連携しながら、生徒個々の進路実現のために必要な資料や、情操教育のための資料を充実させ、心豊かな人間形成と知識の向上を図る。 目標：図書館資料の充実と、図書館利用度に関する評価指数 (実行度) 75%以上</p>	<p>教職員側の、朝読書や教科指導などを通じた読書促進指導の取組度は77%であり、目標を上回った。また、図書館を読書の場だけでなく、情報収集や交流・憩いの場として等、多様に使用できるような環境作りに努めた結果、生徒の図書館活用度は71%で、目標に迫ることができた。</p>	<p>来年度も図書委員会を中心に、朝読書や図書館講座、ビブリオバトル等の図書関係行事を継続していくことで、読書に対する啓発活動を推進していく。さらに、清潔で使いやすく、生徒の交流・憩いの場として気軽に利用できる図書館づくりを目指していく。</p>
<p style="text-align: center;">6</p> <p style="text-align: center;">広報活動、PTA・同窓会活動 (学習支援部)</p>	<p>a. PTA・同窓会との活動および自治体や地元企業といった地域との連携を深めた教育活動を展開していく。 目標：PTAや同窓会、地域等への発信や連携に関する評価指数 (実行度) 75%以上</p> <p>b. 上記の教育活動を保護者や地域に積極的に発信し、魅力化推進を図る。 目標：教育活動の発信等の魅力化推進への取組に関する評価指数 (実行度) 75%以上</p>	<p>PTA・同窓会・地域等との連携を深めた教育活動に参加できることが「できた」と回答した教職員は76%で、目標値に届かなかった。また、「まったくできなかった」と回答した教職員が7%で、すべてのアンケート項目の中で業務改善に次いでワースト2の結果となった。一方でこれらと連携した教育活動の中で成長しているという実感を得ていると回答した生徒は85%となっている。また「高校生学習状況調査」での「地域での問題に関心がある」と回答した生徒が63%となっており、学校での取組に一定の成果があると考えられる。</p> <p>上記の教育活動について、ホームページやPTA日より、学年通信などを通して、お子様の学習や活動の様子について知る機会を得ていると回答した保護者は90%となり、発信に関しては成果が出ていると考えられる。「得られていない」と回答した保護者が10%いることを鑑み、情報が確実に届いているわけではないことがわかる。</p>	<p>PTAや同窓会・地域等との連携を踏まえた教育活動については担当者だけが関わるものと認識している教職員もいると考えられる。しかし、学校祭、マラソン大会、入学式・卒業式といったほとんどの教職員が関わっている学校行事にはPTAや同窓会にも協力をいただいている。こういった学校行事や、「総合的な探究の時間」や「就労探究」の他、生徒が参加するさまざまな地域活動への理解を深めよりよいアイデアを提供することで、教育活動への参加を進めていくことができると考えられる。</p> <p>ホームページや各種通信、SNSでの発信は一定の成果があるが、そのようなツールを使っていること、PTA日より学年通信等を発行していることを、周知していくことが必要である。</p>